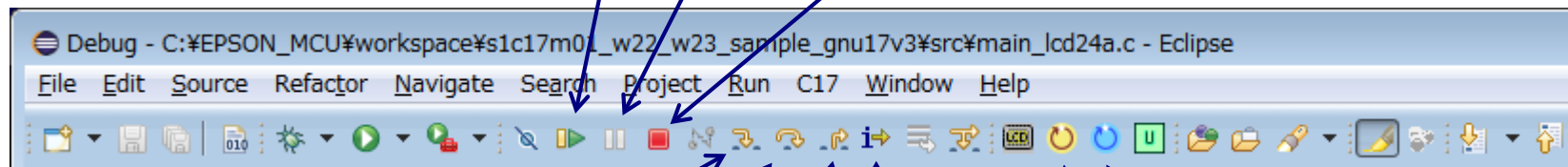


[Resume]  
プログラムを実行します。

[Suspend]  
実行中のプログラムを一時停止します。  
デバッグモード内では、MCU内部情報の参照、  
編集、各種設定が可能です。

[Terminate]  
GDBデバッガを終了します。



[Step Into]  
プログラムを1命令実行します。

[Step Over]  
サブ関数も1命令として、実行します。

[Step Return]  
現在の関数を抜けるまでプログラムを実行します。

[Instruction Stepping Mode]  
アクティブにすると、[Step \*]がアセンブラ命令単位になります。

[Reset Target]  
評価ボード全体を  
ハード的にリセットします。

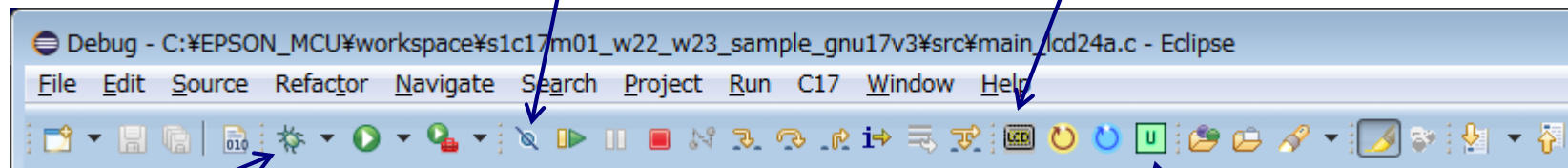
[Reset]  
プログラムの先頭に移動し、  
CPU内のレジスタを初期化します。

[Skip All Breakpoints]

設定したブレークポイントを無視します。

[Launch LCDUtility]

LCDUtil17ウィンドウを開きます。



[Debug]

デバッガを起動します。■[Terminate]アイコンを押した後、プログラムを修正し、このアイコンを押すと以下の一連の作業を実行することができます。

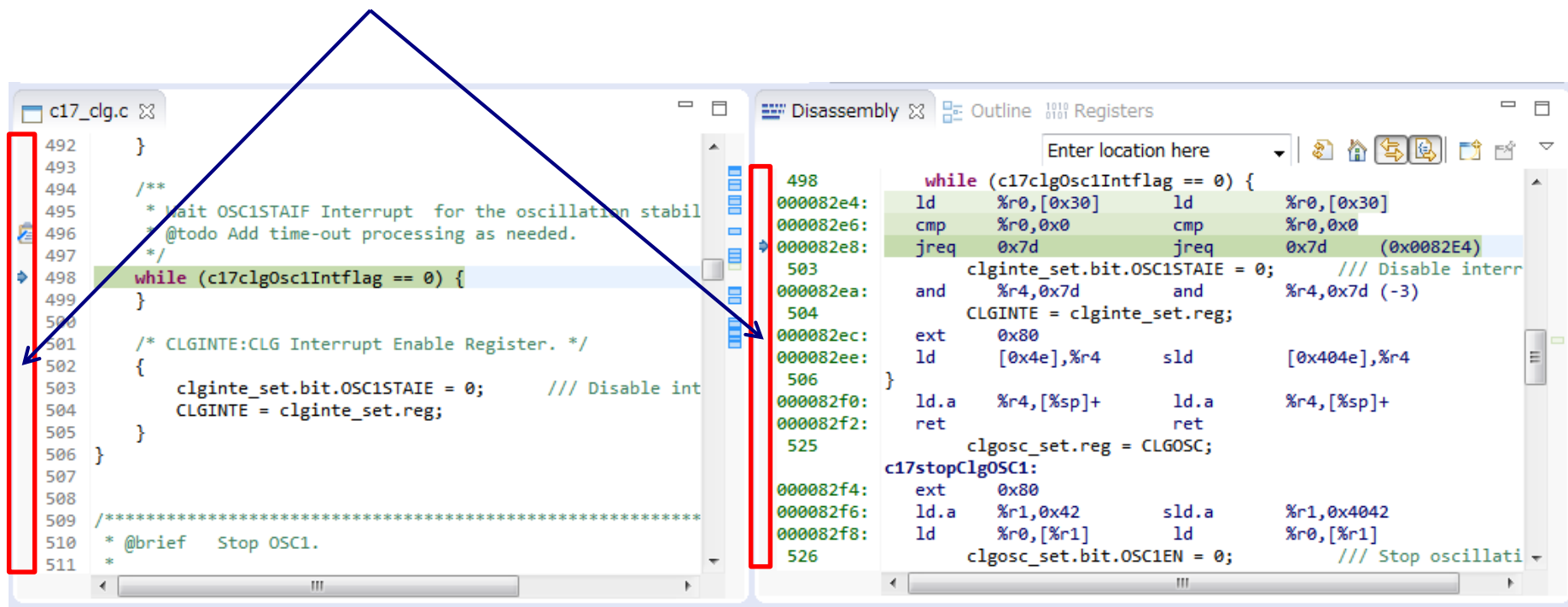
“ビルド” → “プログラムのロード” → “デバッガの起動”

[User Command]

ユーザーが定義したデバッグコマンドを実行します。

定義は、“userdefine.gdb”ファイルで行います。

ブレークポイントを設定する場合は、この場所をダブルクリックしてください。



※ ICDモードで、ブレークポイントをFLASH ROM上に設定する場合、Hardware Breakpointを使用します。Hardware Breakpointは、ターゲット機種ごとに最大設定数に制限があります。最大設定数以上を設定するとエラーとなりますので、不要なものを解除してください。